

～阪神高速のある風景～
第3回 阪神高速フォトコンテスト最優秀賞作品

CONTENTS

エッセイ●季節の言葉

ウルトラマン、異色の作品 鳴沢真也

1 この出入口のこと知ってる?●阪神高速の出入口再発見!

さかい「堺」

15号堺線「堺出入口」

自転車づくりのまち・堺は、
楽しみが広がる「自転車文化」を発信するまちへ

4 関西の名工

西出長仕さん (つげ櫛職人)

すっと髪に入り、滑らかに櫛が通る
貝塚の伝統工芸品・つげ櫛は、一生もの

6 教えてセンセイ

木村亮さん (京都大学名誉教授)

日本の伝統的土木技術、土囊が
途上国の道直しに役立っています。

8 阪神高速の取り組み

**阪神高速では広報活動を
積極的にしています**

10 ちょっと行ってみたい関西うまいもん

伊吹在来そば ●滋賀県米原市

12 Hanshin Highway TIMES

阪神高速4号湾岸線 泉大津PA(海側)11階展望ルームをご利用ください
第4回 阪神高速フォトコンテスト開催中!
阪神高速の料金所がETC専用!順次かわります
大阪・兵庫エリア(ETC車載器購入助成キャンペーン2023)実施中!
阪神高速を利用してりんくうプレミアム・アウトレットに行こう!



表紙イラスト(シモノ自転車博物館)
ヤマサキタツヤ:大阪生まれ大阪育ちのイラストレーター。誌面やWebなど各媒体で活動。
「来た見た食うた 大台南見聞録」(書肆侃侃房)など主に台湾に関する書籍を出版。

エッセイ **冬** 季節の言葉

オリオン座。星座はわからなくても、これだけ
は見たことがあるという方も多いと思います。
今頃ですと夜の8時ごろに南東の空に出ている
大きな星座です。砂時計の形をしているので、一
度見たら忘れない星座です。

さて、砂時計に見立てると、砂が落ちるくびれ
の部分に3つの星
が並んでいます。
そのやや左斜め上

に、肉眼では見えませんが、青い星雲が位置して
います。名前を聞くと「あ、あの星雲か」とわか
る方もおられると思います。その名はM78星雲
そうです。ウルトラマンやウルトラセブンの故
郷です。M78星雲というのは、実在する星雲だっ
たのです。

ウルトラマン、異色の作品

最初は、いつものお決まりどおりにウルトラマン
と対決するわけですが、力関係は互角。そして、い
よいよ大決戦か? というところになって、なぜか
メフィラス星人は落ちていて、こう言ったのです。
「よそう。ウルトラマン。宇宙人どうしが戦って
もしようがない」

ご存知のようにウルトラマンシリーズは、凶暴
な怪獣もしくは地球侵略を試みる宇宙人と戦闘
して撃退するというのが主なパターンでしたが、
初代のウルトラマンでちょっと風変わりな作品
がありました。第33話「禁じられた言葉」という
回です。そこに登場したのがメフィラス星人と
いう、やはり地球
侵略を目的に來訪
した宇宙人です。

こう言い残して、メフィラス星人は消えてしま
う(おそらくテレポーターションでメフィラス星
に帰った)のです。激しい戦闘の後のウルトラマ
ンの勝利を期待していた少年期には、なんとも物
足りない作品でした。

しかし、今になって回想するとメフィラス星人
の言葉には重みを感じます。大きな宇宙の中で知
性を持つ生命どうしが暴力的な手段に訴えること
は愚かだ、ということなのでしょう。さて、現実の
地球ではどうでしょうか? 宇宙人どうしの戦い
どころか、昨今のニュースを見ると、なんともやる
せない気持ちになります。

冬は星空が賑やかな季節です。星の見えるとこ
ろに出かけて、オリオン座を見てみませんか。そし
て、この地球上のことも見つめ直してみませんか。

鳴沢真也 なるさわしんや(兵庫県立大学自然・環境科学研究所専任講師)
天文学者、理学博士。専門は天体物理学と地球外知的生命探査。主な著書に「へんな星たち」「連星から
みた宇宙」(共に講談社ブルーバックス)など。

※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、記載内容の変更や中止となる場合があります

この出入口のこと知ってる?

阪神高速の出入口再発見!

さかい「堺」

15号堺線「堺出入口」



「自転車の始まり・ひろがり」これからをテーマに、歴史的に貴重な黎明期の自転車から発展期、展開期まで約80台
の自転車が展示される「シモノ自転車博物館」。公益財団法人シマ・サイクル開発センターが運営する。1階のヒスト
リーシアターでは、展示のプログラムとして「自転車の誕生とあゆみ」を上映。

**自転車づくりのまち・堺は、
楽しみが広がる「自転車文化」を発信するまちへ**

15号堺線・堺出入口周辺は、自転車産業
発祥の地であり、堺市役所にはサイクルシ
ティ推進部があるなど、官民ともに「自転
車のまちづくり」に取り組み地域です。堺
の自転車の歴史や自転車のまちづくりに
ついて、日本で唯一の自転車博物館「シモノ
自転車博物館」の学芸員・神保正彦さんに
聞きました。

古墳時代の金属加工技術がルーツ

堺で自転車産業が盛んになったルーツ
は、1600年前の古墳時代にさかのぼり
ます。仁徳天皇陵など巨大な古墳をつくる
には、土を掘って積み上げる鍬や鋤などの
鉄の道具が必要でした。また古墳からは金
属製の副葬品も多く出土しています。堺に
は、鉄の道具や金属加工品をつくる技術を
持つ職人が多く集まっていたのです。自転
車をはじめとする堺の金属加工産業の源
流は、こうした太古の職人の金属加工技術
にあります。

中世に入ると、この金属加工技術は鉄砲
づくりにかかわります。貿易港である堺に
はいち早く鉄砲が伝わり、鉄砲の一大生産
地に。平行して、たばこの刻み包丁など質
の高い刃物もつくられるようになります。

そして明治時代、海外から持ち込まれた
のが、自転車でした。堺では1899(明治
32)年、北川清吉と齋木考三郎が輸入品の
自転車の貸貸しを始め、珍しい自転車に乗
れると大人気になります。ただし乗り慣れ
ない人ばかりが乗るので、転倒や故

障が相次ぎ、修理が必要です。その修理に腕をふるったのが、優れた金属加工の技術を持つ鉄砲鍛冶職人でした。

金属を巻いて鉄砲の筒、あるいはサドルを支えるパイプをつくるなど、鉄砲と自転車づくりは似ていたんですね。鉄砲鍛冶職人は修理だけでなく自転車の部品を製造するようになり、大正時代には鍛冶屋兼業から自転車部品を専門とする製造者へと変わっていきます。

堺の鉄砲や刃物、自転車は、分業制でつくられることも共通した特徴です。鉄砲なら銃身、引き金などの部品ごとに担当を分け、それぞれの職人が高い精度を求め合い、技を磨いてきました。自転車部品でも、ハンドル、ペダル、ブレーキ、ギアなど専門の部品をつくる技術者、事業所が次々に誕生。1938(昭和13)年には、約400社の自転車部品メーカーが集積するまちなりとなります。アメリカのシリコンバレーがIT関連の産業クラスターとよく言われますが、堺はまさに自転車の産業クラスターとなったのです。

散歩するように自転車で「散走」を

第二次世界大戦が始まると自転車部品メーカーは軍需産業に転換せざるを得なかったものの、戦後、新たに立ち上がり自転車部品づくりを復興します。高度成長期にはミニサイクルの登場もあり、買い物や通勤、通学の足として多くの人が自転車に乗るようになります。1972(昭和47)年の日本の

自転車年間生産台数は708万台で、このうち堺の自転車生産は全国の20%、部品で48%を占め、堺の自転車部品がなければ日本の自転車はつくれないほどになります。

ただ日本の自転車づくりは、しだいに国内から台湾、中国へ移り、1990年代から2000年代には堺の自転車部品産業も縮小、現在は自転車部品メーカーはほとんど残っていません。

と言っても、堺が自転車のまちではなくなったわけではあります。以前が「自転車の意味での「自転車のまち堺」をめぐらしています。近年、ヨーロッパを中心に健康や環境の観点から自転車を活用する動きがあり、日本でも2017年に自転車活用推進法が施行されました。堺市ではサイクルシティ推進部という部署を設け、率先して自転車をいかしたまちづくりに取り組んでいきます。シノリックなイベントとしては、自転車レース「ツァー・オブ・ジャパン」の第一ステージが毎年、堺市で開催されています。シノノ自転車博物館がつけられた背景も、株式会社シノノが1921(大正10)年の創業以来、堺で育てられてきた企業として、地元への恩返しと自転車文化を世界へ広めたいという思いを込め、2代目社長・島野尚三が自身の「自転車博物館サイクルセンター」をオープンしたことにあります。2022年に移転、拡大し、シノノ自転車博物館としてリニューアルオープンしました。1994年から開催している「自転車の乗り方教室」には、延べ4万人以上の

人が受講されています。

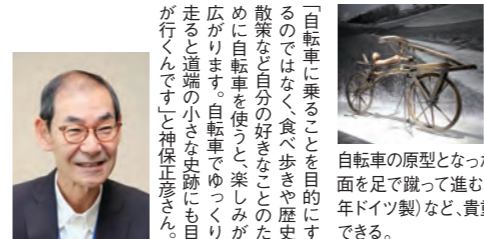
ところで、日本では近所のスーパーなどちよつとそこまですという時、よく自転車で乗って行きますよね。日本のママチャリ文化とも呼べるこの自転車の使い方は、世界的にはごくユニークなことなんです。アメリカなど海外では自転車はスポーツや遊びの道具としてとらえられ、日本のように生活アイテムとしては使われていません。もちろん、日本にもスポーツとして自転車で乗る人はいますが、多くの人が自転車に乗る人はいませんが、多くの人に自転車で乗る人への世界です。

私たちはこれからの自転車は、買い物用かスポーツ用かという二者択一ではなく、その中間を埋めるように楽しく乗る「自転車文化」を広めていきたいと考えています。歴史が好きなら自転車博物館、歴史的スポットを訪れたり、野鳥の好きな人なら自

【シノノの2代目社長・島野尚三氏が1983年に145台のクラシック自転車を入手したのを機に、ビジネスとは別に財団法人を立ち上げ、1992年「自転車博物館サイクルセンター」をオープン。2022年に展示面積を3.5倍に拡大して「シノノ自転車博物館」を移転、オープンした。公益財団法人シノノ・サイクル開発センターが運営し、これも自転車安全教室やクラシック自転車（レプリカ）体験試乗などのイベントも定期的に開催。



シノノ自転車博物館
堺市堺区南向陽町2-2-1



「自転車に乗ることを目的にするのではなく、食べ歩きや歴史散策など自分の好きなことのために自転車を上手に楽しみながら走ります。自転車でゆっくりと歩くと道端の小さな石碑にも目が行くんですよ。」
「自転車に乗ることを目的にするのではなく、食べ歩きや歴史散策など自分の好きなことのために自転車を上手に楽しみながら走ります。自転車でゆっくりと歩くと道端の小さな石碑にも目が行くんですよ。」

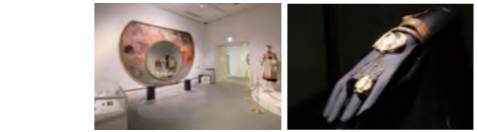
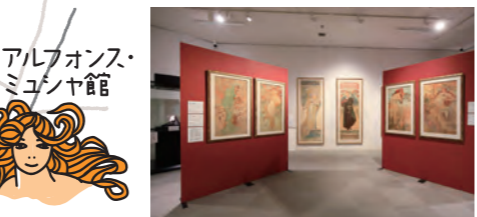
写真左上/駅前など市内140カ所にシェアサイクルの自転車ポートが設置されている。どこでも借りてどこでも返却してもOKなので、堺の観光スポットめぐりにもぴったり。写真左/堺市内に計71.1km、シノノ自転車博物館前にも整備された「自転車走行帯」。自転車文化を安全に楽しく発展させる大切なインフラ。

転車で野鳥を見に行ったり。私たちが提唱しているのは、散歩するように自転車でゆっくり走る「散走」です。堺には古墳群をはじめ、千利休ゆかりの地などの観光スポットがちよつと自転車でも巡るのが最適な距離に点在しています。堺では、市内140カ所の貸出返却ポイントで乗りたいたい時に自転車を借りて行きたい場所まで返す「シェアサイクル」のしくみも整っています。自転車走行帯も市内7.1kmに渡って整備されています。

阪神高速堺出口を降りて車を停め、シェアサイクルに乗り換えて「散走」してみませんか。ゆっくり走る自転車なら、見えてくるものがぐっと広がります。ものじまりなんでも堺。「散走」という新しい自転車文化を堺から世界に発信していきたいですね。



★方違神社
摂津、河内、和泉の三国の境にあること（なほ、これが「堺」の地名の由来とされる）、どの国にも属さない方位のない清地とされ、方除祈願で知られる全国的にも珍しい神社。「ほうちがいさん」と呼ばれて親しまれる。古くから遠方へ出かける際、方向がよくなければいったん別の方向に向かってから出かける風習があり、方違神社に参れば災難にあわないと伝わる。境内の土を包んだ粽(ちまき)が悪い方向を祓うとされ、現代でも新築、転居、旅行などの際の災除けとして多くの参詣者が訪れる。



★堺 アルフونس・ミュシャ館
画家・アルフONS・ミュシャの作品を一堂に展示するミュージアム。アルフONS・ミュシャは、現在のチェコ共和国に生まれ、19世紀末から20世紀初頭にかけてパリを中心に花開いた芸術様式・アール・ヌーヴォーの旗手として活躍した。しなやかな曲線と豊かな色彩を特徴とし、異国趣味・古典を思わせる装飾様式が見られ、多くの美しい女性像を描いた。ミュシャがパリで有名になるきっかけとなったポスターをはじめ、さまざまなテーマの企画展を通じて、ミュシャの作品を鑑賞できる。



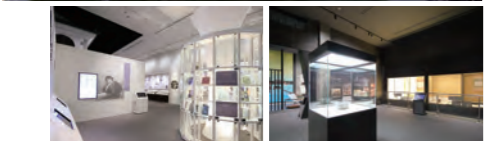
★百舌鳥八幡宮
6世紀中頃、欽明天皇の時代にこの地を万代(もろよ)と称し、八幡宮のご託宣を受けて、国家泰平の祈願のため創建されたと伝えられる。約2万㎡の境内には指定保存木が多く、なかでも本殿前のクスノキの巨木は幹周5.2m 樹高25m 樹齢約800年で府の天然記念物に指定されている。毎年中秋の名月(旧暦8月15日)に近い土日にむかわれる月見祭は、豊作祈願と満月を祝う祭りで、氏子9町により奉納される「ふとん太鼓の宮入り」の練り歩きは勇壮華麗。

写真左下/堺市内に計71.1km、シノノ自転車博物館前にも整備された「自転車走行帯」。

★さかい利品の社



堺の偉大な先人、千利休と与謝野晶子の生涯や人物像を通じて、堺の歴史や文化の魅力を発信する施設。千利休と茶の湯を歴史文化から解き明かす「千利休茶の湯館」、歌人と与謝野晶子の作品世界とその生き方に触れる「与謝野晶子記念館」、堺観光の拠点となる「観光案内展示室」がある。また、利休作で唯一現存する茶室・国宝「待庵」の創建当初の姿を想定復元した「さかい待庵」のほか、表千家・裏千家・武者小路千家の本格的な茶室もあり、茶道三千家の指導のもとでお点前体験も可能。気軽に椅子席でお抹茶とお菓子を味わう立礼呈茶も楽しめる。(待庵の見学、茶の湯体験は要予約)



★フェニーチェ堺

オーケストラ、オペラ、バレエ、ポップス、ミュージカルなど多彩な公演が可能な劇場(多目的ホール)。芸術文化の創造・交流・発信の拠点施設として、2019年にオープンした。南大阪最大級の2000席収容可能な大ホールは、3層バルコニー構造でどの席からも舞台が見えやすく快適な環境で鑑賞できる。312席の小ホールは発表会やセミナーなどさまざまなイベントに最適。



★仁徳天皇陵古墳 大仙公園

5世紀中ごろの築造とされる、墳丘長約486mの日本最大の前方後円墳・仁徳天皇陵古墳。日本書紀などに伝えられる仁徳天皇、履中天皇の在位順とは逆に、履中天皇陵古墳よりも後で築造されたことがわかっている。大仙公園は、仁徳天皇陵古墳(大仙古墳)に隣接する、日本の歴史公園100選にも選定された公園。約38万㎡の広さを誇る公園内には、イチヨウ並木や芝生広場、児童の森など自然と触れ合える空間が広がり、博物館、茶室、日本庭園などもある。

写真左下/堺市内に計71.1km、シノノ自転車博物館前にも整備された「自転車走行帯」。